

[その他]

九州看護福祉大学における海外教育機関との学術交流 について

—河北外国語職業学院との姉妹校締結—

高 継 芬

【要 旨】

平成26（2014）年1月16日に中国の河北外国語職業学院の丁国声院長ほか2名の来訪団が本学を訪れ、双方が学術交流に関して協議した上で学術交流協定を締結するための調印式を行った。

また、平成26（2014）年6月3日に、交流の具体的な項目である、学生間の交流及び教員間の学術交流に関する覚書の調印式を河北外国語職業学院で行った。

本学の建学基本理念の一つに「近隣諸国と学ぶ大学」を掲げ、今日まで韓国、アメリカ、タイ等と盛んに交流を行ってきたが、中国の大学との学術交流のための姉妹校締結は本学の当初からの願いでもあったのでやっと思い叶ったことになる。

本稿はこの記念すべき学術交流協定に関する調印式が、今後両校の文化的、学術的交流のスタートになることを願って、姉妹校締結に至った経緯を報告し、今後の教員間の交流、学生間の交流の推移を見守ることとしたい。

キーワード：河北外国語職業学院、国際交流、姉妹校、学術交流協定締結

I. 本学の基本理念及び中国の大学が海外の大学との国際連携についての指針

1. 本学の基本建学理念

近年、尖閣諸島や防空識別圏問題、更に安倍総理が正月に靖国神社を正式参拝したことによって、日中友好関係が悪化している中での河北外国語職業学院の来訪は、奇跡だと言っても過言ではない。

本学は基本理念の一つに「近隣諸国と学ぶ大学」を掲げている。本学は、アジアの近隣諸国との交流を重視し、保健・医療・福祉を国際的に見る感覚、国際感覚を身に付けた専門家の養成を基本理念とする。今日まで韓国、アメリカ、タイ等と盛んに交流を行ってきたが、中国の大学との学術交流のための姉妹校締結は本学の当初からの願いでもあったのでやっと思い叶ったことになる。

中国の海外の大学との大学間交流協定(平成23年度)-私立大学その1-「(大学における教育内容等の

改革状況調査(平成23年度実績)」¹⁾によれば、日本の大学の中で、中国の大学と学術交流協定を結んでいる大学は630校あり、中国と日本の大学間の国際交流が盛んに行われていることを示している。

本学は、三つの基本理念として、1「地域と共に成長する大学」、2「生涯にわたって学べる大学」、そして国際交流を唱える3「近隣諸国と学ぶ大学」を掲げている。そして五つの教育方針の一つに、「国際的な幅広い視点に立ち、最新の情報収集と情報発信能力を培うとともに、国際感覚の習得と創造的・意欲的な活動力を育成する」と謳っている²⁾。

そして本学も国際交流を行ってきた成果の一つとして、中国の北京から300キロ離れた東に位置している秦皇島市にある河北外国語職業学院と姉妹校として学術交流に関する協定を結ぶことができた³⁾。本稿は、本学と河北外国語職業学院との学術に関する交流協定を締結するまでの経緯を報告するものとする。

2. 中国の大学と海外の大学との国際連携についての指針

また、中国の高教部（日本の文科省に相当する）が、中国の大学と海外の大学との国際連携についての指針を次のように掲げている。

「解放による改革・発展の促進を堅持する。重層的幅広い教育交流・連携を実施し、中国の教育の国際化水準を高める。海外の先進的な教育理念や教育経験をモデルとして、中国の教育の改革・発展を促し、我が国の教育の国際的地位、影響力、競争力を高める。」

—第16章第48条

「中国と海外の大学との間の教員の相互派遣、学生交流、単位の相互承認、学位の相互授与、共同授与制度を支援する。国外の高水準の大学との連携を強化して、教育の科学研究連系プラットフォームを構築し、高水準の基礎研究・先端技術研究を共同で推進する。ユネスコ等国際組織との連携を強化し、二国間、多国間及び世界的、地域的な教育連携に積極的に参画する。国際組織の教育政策、規則、基準の研究や制定に、積極的に参画し推進する。」

—第16章第50条

Ⅱ. 本学における国際交流

1. 本学の基本状況

本学は平成10（1998）年4月に開学された。大学が設置されている熊本県玉名市（人口は約7万人）をはじめ、近隣の市・町、そして熊本県からの拠出金、さらに地域の住民の方々からの寄付金により設立された公設民営の大学である。

学生数は、平成25（2013）年5月1日現在で総数1,654名である。教職員は155名である。看護、社会福祉、リハビリテーション、鍼灸スポーツ、口腔保健の5つの学科、及び看護学、精神保健学の2つの専攻で構成されている。更に、平成26（2014）年度には新たな専攻として健康支援科学専攻を新設した。

2. 本学の国際交流現状

本学は、開学当初から基本理念に沿って国際交流を行い続けてきた。

本学は外国語教員としてイギリス、中国及び韓国

出身者を採用しており、これらの外国語を選択科目として開設し実績を挙げている。例を挙げれば、平成25（2013）年度における授業科目「中国語会話Ⅰ」の受講者数は38名であり、「中国語会話」の受講者数は25名であった。学生の間で中国語の人気を示す数字となった。

また、平成19（2007）年度より社会福祉学科に国際協力コースを設置（平成24年度社会福祉学科のコース制廃止で終了）し、途上国における保健・医療・福祉の国際協力ができる人材の養成をした。さらに、平成20（2008）年4月、韓国の全州市に所在する「又石大学」と交流協定を締結したことにより、学生間の交流が行われている。併せて、平成19（2007）年6月、玉名市の姉妹都市であるアメリカ合衆国のアイオワ州クラリンド市に所在する「アイオワ・ウェスタン・コミュニティ・カレッジ」（IWCC）と交流協定を締結するなど、国際的な交流を活発化してきている。

Ⅲ. 河北外国語職業学院における国際交流

1. 河北外国語職業学院の概要について

河北外国語職業学院は、河北省で唯一の独立で大学になった国立外国語短期大学である。北京から東へ約300キロ離れた場所に位置しており、新幹線が開通することで、北京から1時間で行けるようになった。世界でも有名な避暑地である北戴河と南戴河の間に位置し、北は北戴河に面し、南は渤海に臨んでいる。この地は、共産党の指導者達が毎年夏避暑地として利用している。その間、戦略的に重要な「北戴河会議」を開いた。河北外国語職業学院の敷地面積は約35万平方メートルで、総建築面積は14万平方メートルである。1948（昭和23）年に設立されたが、2007（平成19）年に河北省人民政府の許可を得て、大学名が秦皇島外国語職業学院から河北外国語職業学院に変更になった。

河北外国語職業学院の現在の在学生数は、7200余名である。そのうち100余名は長期、短期の外国人留学生となっている。教職員は485名で、そのうち海外から帰国した教員が24名である。そのほかに、66名の非常勤講師と20数名の外国人教師も学院で教鞭を執っている。そしてまた、50名以上の若い教員

が国内外で大学院修士課程や博士課程において、自己研鑽に励んでいる。

河北外国語職業学院は人材の育成を根本にし、教学と科学研究を最重視している。「人材で学院を発展させ、人材で学院を興隆させる」という人材戦略を強調している。また、河北外国語職業学院は河北省で語学教育に重点を打ち立て、「外国語＋専門知識＋技能」という教育モデルを作り、師範性、職業性、国際性を際立たせ、実用的かつ複合的に外国語を活用できる人材の育成を行っている⁴⁾。

2. 河北外国語職業学院の日本語学教育に関する学科について

日本語を専攻する学生数は約400名であり、主に三つの学科で構成されている。

1) 日本語観光学科

「育成目標」

日本語の基礎知識だけに止まらず、観光業の専門知識、及び職業的技能、実践力も有する現代観光業に適任する人材を育成する。

「履修科目」

基礎日本語、総合日本語、観光用日本語、日本国の概況、ガイド基礎知識、中国の世界自然文化遺産等。

「主な就職先」

旅行社の日本人観光客向けのガイド、ホテルのフロント、初級通訳、外資系企業等。

2) 応用日本語学科

「育成目標」

本学科ではしっかりとした日本語基礎知識を身に付けた上で、聞く、話す、読む、書く、訳す、五つの能力を持つ人材を育成する。

「履修科目」

総合日本語、日本語会話、日本語ヒアリング、実践日本語、日本事情、日本語文章作成、日本語読解、日本語リテラシー、応用日本語、ホテルの経営管理等。

「主な就職先」

外資系企業の現場通訳、資料の翻訳、外資系企業の秘書、輸入貿易会社の商品の仕入れ部門、販売部門、旅行会社のガイド、日本と合資のホテルの経営管理、サービス業務、日本への留学を目的

とする日本語センターの日本語教員等⁵⁾。

3) ビジネス日本語学科

「育成目標」

本学科は基礎的な日本語知識を身に付け、聞く、話す、読む、書く、訳すといった基本技能を持ち、日本企業のサービス理念、礼儀等を熟知する人材を育成する。

「履修科目」

総合日本語、日本語会話、日本語ヒアリング、日本語翻訳、パソコン日本語入力、日本概況、国際貿易実務、日本語商業用書類作成方法等。

「主な就職先」

日本企業の営業担当もしくは営業補助担当、対日輸出貿易会社の業務担当、日本語系の外資企業及び日中合資会社の渉外担当等⁶⁾。

3. 河北外国語職業学院の国際交流について

河北外国語職業学院は国際交流にも力を入れ、日本をはじめ、韓国、アメリカ、ロシア、ニュージーランド、オーストラリア等各国と協定を結んでいる。

日本の大学と河北外国語職業学院の交流については、2005（平成17）年3月、関西国際大学代表団が河北外国語職業学院を訪問し、共同教学に関する協議を行った。

2005（平成17）年12月1日、苫小牧駒澤大学代表団が河北外国語職業学院を訪問し、学術交流に関する双方の交換留学生について協議を行った。

2006（平成18）年5月3日、日中友好、和平、文化交流旅行団一行34名が、中日両国の国民の理解と友情を進めること、そして中日の間の友好交流を強化することを目的に、河北外国語職業学院を訪問した。

2007（平成19）年2月7日～16日、河北外国語職業学院の全国興、梁麗華2名の教師が、日本語学科2004（平成16）年に入学した学生10名を引率して、日本の名古屋市を10日間ほど訪問し、友好交流を交わした。

2012（平成23）年3月30日、成美大学が河北外国語職業学院と学術交流友好協定を結んだ。学術交流に関する調印式は河北外国語職業学院で行われ、成美大学の戸祭学長が署名した。今後は、教員間の研究

交流、学生間交流等を推進していくこととなった⁷⁾。

2012（平成24）年5月、九州看護福祉大学から高木常務理事（当時常勤理事）と筆者が河北外国語職業学院を訪問し、学術交流について二日間に渡り協議を行った。

2014（平成26）年1月16日、河北外国語職業学院の代表者、院長の丁国声、教学担当の石興龍、財務担当の李継紅の3名が九州看護福祉大学を訪問し、学術交流に関する協定書の調印式を行った。

IV. 本学と河北外国語職業学院との協定締結に至る経緯について

1. 河北外国語職業学院の訪問

本学は現在も国際交流を積極的に行っているが、中国の大学との交流はスムーズに進まなかった。しかし、玉名市教育委員会教育長からの紹介もあり、2012年5月に初めて河北外国語職業学院を訪ねることができた。

本学から高木常務理事（当時常勤理事）と筆者が、両大学の学術交流の可能性を探るため、平成24（2014）年5月21日から22日の二日間に渡って、河北外国語職業学院を訪問した。

21日に河北外国語職業学院に到着後、日本語学科で日本語を学修している2年生の30名ほどの学生を対象に、高木常務理事が日本語で本学の概要を説明し、さらに中国の「論語」と日本の「学問のすずめ」（福沢諭吉）の関係について50分ほど講義を行った。学生は1年生から日本語を勉強しており、日本語をほぼ理解できるレベルに達していて、興味津々で聞いていた。

中国では昔から学問の祖ともいえる孔子は知識人や学生から尊敬され、今でも大学で孔子の言葉を学び、また国の資金援助による孔子学院を海外に設置することを盛んに行っている。講義の後、学内を見学した際、あらゆるところに孔子の言葉が掲示されているのを目にした。

両大学の相互学術交流についての具体的な協議は3時間に及んだ。河北外国語職業学院の出席者は、院長丁国声、国際交流を担当している国際交流センター長李創峰、教学を担当している酒店航空系主任教授石興龍、旅遊系主任准教授全国興の4名である。

1) 訪問目的：

この機会を生かして、将来の姉妹校締結に向けての協議を行うことが訪問の目的である。

将来的に両大学間で、異文化交流をはじめ、留学制度、交換留学生制度、情報交流、語学研修、海外研修・インターシップ等の国際教育プログラムが実施されることを目指したものである。

2) 協議内容：

・ 短期目標：

「教員間の交流」

河北外国語職業学院では日本語教員が不足しており、本学の教員が河北外国語職業学院で日本語を教えること。また、河北外国語職業学院から招聘した教員が、本学で中国語や中国語を受講する学生に中国文化を教えることなどの交流が可能であること。本学において異文化に興味を示す学生が多数おり、国際交流の重要な役目を果たすことになる。

「学生間の交流」

交換留学が可能であること。本学学生が河北外国語職業学院で中国語を学び、また、異文化を体験する。河北外国語職業学院の学生が本学で日本語を学び、異文化を体験する。先方の大学は全寮制をとっており、本学の学生もその寮に入ることとなる。逆に先方の大学からの学生は、教育宿泊棟を利用することとなる。相互に、住居環境を配慮する形となる。

・ 中期目標：

「留学生編入制度の創設」

河北外国語職業学院が3年制の短期大学であることから、卒業後本学へ編入学しそして卒業するための2年間程度のカリキュラムを編成し、そのカリキュラムを修了した時は学士の学位を与え卒業させる。学費を中国並の額にし（年間30万円程度）、大学を卒業できるということになれば、中国は学歴社会となっており、優秀な学生が本学を目指して入学してくることとなる。

3) 訪問成果

丁国声院長が2012（平成24）年9月を目途に本学を訪れ、調印式を行うこととなった。同年5月末に

も森理事長からの招聘状を発送し、それを受けて河北外国語職業学院では来日手続きを始める事となる。6月から9月にかけて、協定案作成のための協議を電子メールで行う。9月以降、姉妹校締結後の教員交流、交換留学生を平成25（2013）年度からの実施に向けて、その実施方法等に係る検討作業を進めることにする。

河北外国語職業学院からの要望は、以下の6つである。

- 一 理事長と面接し、調印式の相手としたいこと。
- 二 調印式を日本（九州看護福祉大学）で行うこと。
- 三 協定締結から実施に至る過程は、今回の訪問で信頼関係を構築できた九州看護福祉大学の高木・高がかかわること。
- 四 今回の訪問の主な目的である相互交流を、先方の代表者である院長（学長）が強く望んでいる。
- 五 先方の大学の理念の一つである国際交流と合致するものとして、早急に実施に向けた取り組みを行いたいとのこと。
- 六 先方の大学が国立大学になったことから、今後大いに交流項目が増えることが可能である。

V. 学術交流に関する協定締結のための調印

平成26（2014）年1月16日午前10時に訪問団が本学に到着し、二塚学長（当時）が自ら学内を案内した。その後10時半から、本学の大会議室で相互学術交流のための調印式を行った。

調印式では、まず河北外国語職業学院が用意してきたCDを使って大学の紹介が行われた。その後、学術交流協定書の内容を確認し友好交流の意志を交わした上で、学術交流に関する協定書に、本学は森正臣理事長、河北外国語職業学院からは丁国声院長が交互に協定書に署名した。

両大学は対等を基本とし、以下の項目について交流を促進することとなった。

- （1）職員及び研究者の交流に関すること
- （2）学生の交流に関すること
- （3）学術情報及び資料の交換に関すること
- （4）共同研究その他科学研究の実施に関すること

（5）その他両大学が合意した事項に関すること

また、長期目標として、河北外国語職業学院から本学との学術交流の一環として、協力し合って玉名市内に孔子学院を設立することについて打診があった。孔子学院は、中国の文化等を外国に紹介し、中国への理解を深めるために設立されるものである。

河北外国語職業学院は、2011（平成23）年9月3日にボリビア；サンシメオン大学との間で孔子学院を正式に創立した。中国語や中国文化を学べる学院としては初めてのこととなる。

日本の大学との共同設置ということで孔子学院が設立されているが、九州にはまだ孔子学院は一カ所しかない。

中国語や中国の文化に興味を持っている市民、中国の企業と関係ある会社も多く存在しており、孔子学院が設置されれば、中国語を習うことだけではなく中国との文化交流が一層深まることは違いない。

VI. 終わりに

平成26（2014）年1月16日に九州看護福祉大学と河北外国語職業学院との学術交流に関する調印式が本学で成功裏に行われ、国際交流の面においては記念すべき日となった。

河北外国語職業学院は現在3年制の短期大学ではあるが、中国の高等学校教育部（日本の文部科学省に当たる）の大学改革の方針により、中国の大学も、1990年代から職業教育を重点に置くようになってきた。近い将来（5年以内）4年生大学に移行することになると丁国声院長の発言があったように、これから河北外国語職業学院は3年制の短期大学から4年制大学に移行することで、学生の外国語の言語能力、専門知識や職業技能が更に向上することが期待できる。

日本と中国における政治関係は、今後も緊迫状態が続き、政治の影響で場合によっては友好関係が更に悪化することも予想されるが、民間においての文化的な交流、学術面での交流が政治に影響されない日が来ることを願っている。両校が姉妹校締結をきっかけに、これから教員間そして学生間の交流が確実なものになるためには、お互いの努力が必要である。

中国国内においても、日中の政治関係が冷えている状況と相反し日本に留学することを目指して日本語を勉強している学生が増えており、実際に日本に留学してくる学生も年々増えている。

ある大学で留学生別科ができ、そこに中国から来ている留学生が60名ほどいる。そこで日本語を教える教員が留学生達に、「大学に日中関係が緊迫の中、どうしてあえて日本語を勉強するのか」という質問を投げかけたところ、学生達の「私達が日本語を勉強したい気持ちは政治と関係ない」という素直な答えに心を打たれたと話された。この小さなことからでも、政治に左右されず、気持ちさえ大切にしていれば言語や文化的な国際交流ができる時代が近づいてくることが期待できそうである。

2014（平成26）年中に、学長が、本学から両校の学生間の交流、教員間の交流のための覚書に調印するために河北外国語職業学院を訪問するとお互い約束したことを再度確認し、終わりの言葉として残しておきたい。

この度、丁国声院長が初来熊され、日本三名城の一つである熊本城、そして県の北部を流れる菊池川をご覧になった際、その素晴らしさに河北外国語職業学院の所在地である北戴河への郷愁を覚えられた。丁国声院長は、その時の感動を即興詩で表現し、我々に披露なさった。最後にその詩をここに書き記したい。

『熊本城連山海関、菊池河川通戴河』

この詩の意味するところは、「ここ日本、熊本に国を守るため、熊本城があるように、河北省にも山海関がある。そして玉名を流れる菊池川があるように、河北外国語職業学院の所在地である河北省秦皇岛市を流れる北戴河がある。日本と中国の関係が一衣帯水であるように、九州看護福祉大学と河北外国語職業学院でも、同様の関係を保つよう交流を深めてゆきたい。」

丁国声院長の詩には、両校の友情が末永く続くことを願ってやまないという気持ちが込めてある。

また、平成26年（2014年）6月3日に、交流の具体的な項目である、学生間の交流及び教員間の学術交流に関する覚書の調印式を河北外国語職業学院で行った。交流項目は、「I はじめに」であげた中国の高等教育の国際交流の方針にもほぼ一致したもの

である。このことについて、これから河北外国語職業学院との国際交流の継続報告をする予定である。

【謝辞】

本報告に当たり、本学と河北外国語職業学院との姉妹校締結の成功にご協力を頂いた河北外国語職業学院の丁国声院長をはじめ、学校の情報を提供して頂いた河北外国語職業学院の国際交流担当の方々に、感謝いたします。

なお、最後に参考資料として協定書を添付し、河北外国語職業学院に敬意を表したく、中国版も添付させていただきました。

【引用・参考文献】

- 1) 私立大学その1-「大学における教育内容等の改革状況調査(平成23年度実績)」
- 2) <http://www.kyushu-ns.ac.jp/> 九州看護福祉大学ホームページ（平成26年8月18日に最終アクセスした。）
- 3) <http://www.niad.ac.jp/> 日本独立行政法人 大学評価・学位授与機構（平成26年8月18日に最終アクセスした。）
- 4) www.hbvcl.com.cn 河北外国語職業学院ホームページ河北外国語職業学院大学案内（原文中国語）から抜粋し翻訳したものである。（平成26年8月18日に最終アクセスした。）
- 5) 平成25（2013）年度河北外国語職業学院の大学案内に基づいて翻訳したものである。
- 6) 河北外国語職業学院入試要項 2013（平成25）年（中国では小、中、高、大学の新学期は9月から始まるので、2014（平成26）年度の入試要項がまだ出ていないため、2013（平成25）年度の入試要項を参考にして、筆者が翻訳したもの。）
- 7) www.hbvcl.com.cn 河北外国語職業学院ホームページ河北外国語職業学院 国際交流についての項目（原文中国語）から抜粋し翻訳したものである。（平成26年8月18日に最終アクセスした。）

九州看護福祉大学と中国河北外国語職業学院との学術交流に関する協定書

九州看護福祉大学と中国河北外国語職業学院は、両大学が対等の立場での教育・研究上の協力と学術交流の促進を図るために、ここに学術交流に関する協定書を締結する。

第1条 両大学は、対等を基本とし、以下の項目について交流を促進する。

- (1) 職員及び研究者の交流に関すること
- (2) 学生の交流に関すること
- (3) 学術情報及び資料の交換に関すること
- (4) 共同研究その他科学研究の実施に関すること
- (5) その他両大学が合意した事項に関すること

第2条 本協定に基づく具体的な活動の策定及び実施については、両大学で協議し、覚書により合意するものとする。両大学は、相互に相手側の法令を尊重し、完全な合意及び承認の上、これらの活動を実施するものとする。

第3条 本協定は、両大学の代表者の合意文書により、修正又は変更することができる。

第4条 学術交流者が相手国において、学術交流活動中に不測の事態に遭遇した場合には、両大学が協議し、善処方を図る。

第5条 本協定は、両大学の代表者が協定書に署名した日から効力を生じるものとし、有効期間は5年間とする。ただし、本協定は、両大学で協議し、さらに5年間延長することができる。
なお、有効期間内であっても、両大学は6ヶ月前に相手方へ通知することにより、本協定を解除することができる。

第6条 本協定書は、日本語及び中国語で作成し、両文書は等しく正文とする。

年 月 日

日本国
学校法人熊本城北学園
理事長

中国
河北外国語職業学院
院長

日本九州看护福祉大学与中国河北外国语职业学院 学术交流协议

九州看护福祉大学与中国河北外国语职业学院本着相互平等的原则，在教育、研究以及学术交流方面进行合作，特此签订协议，内容如下：

第 1 条：双方大学基于平等原则促进以下项目的交流。

- 教师以及研究者的交流
- 学生的交流
- 交换学术信息以及资料
- 实施共同研究以及与其他科学研究
- 其他有关双方大学合意事项

第 2 条：双方大学应依据协议、备忘录事宜协商与本协议有关的具体活动的制定与实施；双方大学应相互尊重对方国家的法律，在完全同意以及承认的基础上实施上述活动。

第 3 条：本协议可根据双方大学代表的合意文书进行修正和变更。

第 4 条：学术交流者如在对方国的学术交流活动中遭遇意外事件时，应由双方大学协商并谋求妥善的处理方法。

第 5 条：本协议以双方大学的代表在协议书上署名之日起生效，有效期为 5 年。本协议经双方大学的协商后可再延长 5 年。在协议生效期间，双方大学可提前 6 个月通知对方解除本协议。

第 6 条：本协议用中文、日文书写，各文本均有同等法律效力。

年 月 日

日本

中国

学校法人熊本城北学园

河北外国语职业学院

理事长

院长